

「Cable IP Stick」

ケーブルテレビが柔軟にカスタマイズできる Android TV OSベースのドングル型端末

AJCC が提供を予定している Android TV OS ベースのドングル型端末「Cable IP Stick」は、画面構成や掲載するコンテンツをケーブルテレビ事業者が柔軟にカスタマイズできるのが大きな特徴。事業者は「見せたい」コミジャンの番組や定点カメラ映像、広告などを効果的に画面上に配置して IP 配信できる。2 台目 STB 代替端末としての利用も想定されている。ケーブルテレビ事業者向けのプッシュ型広告付き無料ストリーミング配信（FAST）など新しいサービスも検討されている。ケーブルテレビの放送事業の新しいビジネスモデルを可能にする端末として、導入を検討する事業者が増えている。

（取材・文：渡辺 元・本誌編集長）

ケーブルテレビ事業者が画面構成

Cable IP Stick の発端は 4 年前に遡る。日本ケーブルラボは 2020 年にスマートケーブルアシスタントという IP 時代を見据えた Stick 型端末の検討を始めた。当時から日本ケーブルラボは OTT やアプリの急速な普及に着目し、マイナンバーを使った住民サービスとの連携を模索し試作を進めていた。その後、BBM の持つ IP Stick を活用し、日本ケーブルラボ、AJCC、BBM でケーブルテレビ業界内での



AJCC 株式会社 理事 営業本部長
補佐 兼 業務開発部長
新井隆彦氏



Android TV OS ベースのドングル型端末「Cable IP Stick」。ACアダプターの LAN 端子経由でインターネットに接続することで、端末を WiFi の AP として利用できる

商用化に向けた検討が開始された。

Cable IP Stick は、Android TV OS ベースの端末だ。「Cable IP Stick を導入すれば、ケーブルテレビ事業者はユーザー

【図】アプリの配列順序のカスタマイズや固定化ができる Cable IP Stick 画面のアプリエリア（一定の設定条件あり）

アプリエリア

CATV 事業者ごとに以下の設定が可能 ※一部制約がある。

- アプリ配列順序
- アプリ固定化（加入者での移動・削除不可）

